日本一時帰国体験記（ファストトラック編）

ガルフストリームではこれまでもコロナ禍の一時帰国についてリポートしてきました。今回、弊誌編集委員が5月末に帰国した際、ファストトラックを使用したのでご紹介します。

【ファストトラックとは何か】

ご存知の方も多いと思いますが、今年2月から入国手続きのスピードアップを目指して導入されたWeb上での書類事前審査がファストトラックです。これまで陰性証明や誓約書、ワクチン証明書などは入国後、紙で提示しなければなりませんでしたが、ファストトラックを使用すると紙の束を抱えて列に並ばなくても良くなります。

【ファストトラックの準備】

ファストトラックは日本入国時の健康管理に用いられるスマホアプリMySOSと連動しており、登録にはMySOSのダウンロード・インストールが必要です。この時、アカウント登録をする必要があり、パスポート番号も入力しなければいけないのでパスポートを手元に準備しておきましょう。

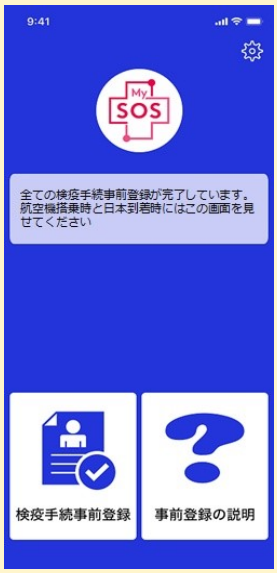
登録が完了すると、MySOSの画面から「検疫手続事前登録」を選択します。すると厚生労働省のWebページに移動して、Web上で質問票への回答、誓約書の提出、ワクチン接種証明の提出、出発72時間以内のPCR検査結果の登録ができるようになります。これらの手続きは一度にする必要はなく、PCR検査を受ける前から登録を始めることができます。

1番目の手続きは質問票への回答登録ですが、私のスマホでは質問票アプリをインストールしてしまうとアプリ内のQRコードを取り込むことができず、アプリではなくWebページで質問票に回答することで対応できました。質問票の登録が終わると、Webページ上にQRコードが表示されるようになります（画像1）。

▲画像1

2番目は誓約書で、氏名などを入力して「同意する」にチェックするだけで簡単です。3番目がワクチン接種証明の登録で、ワクチンの種類や最後の接種日を入力した後、証明書をアップロードします。私はスキャナーで取り込んだPDFファイルをアップしました。JPEGなどの画像ファイルでのアップも可能ですが、解像度が低すぎると審査に通らない可能性もあるので注意が必要です。

ファイルのアップロードが完了すると審査中という表示が出てきます。私は数時間で審査完了しましたが、審査に時間がかかる場合もありますので、余裕をもって準備しましょう。審査が完了するとMySOSの画面が黄色になります。ワクチン接種証明の登録まで終わると、残りは陰性証明登録を残すのみです。これも流れはワクチン接種証明の登録と同様で、入力とファイルのアップロードを済ませてしばらくすると画面が青色になります（画像2）。



▲画像2

【入国時の対応】

ここまで済ませておくと後は楽です。これまで空港のカウンターで紙の陰性証明を見せていたのが、スマホの緑色の画面を見せるだけ。到着空港でもスマホの画面を見せることで一部の手続きをパスできます。但し、私の入国は5/30でアメリカ合衆国が青色国に指定される前だったため、抗原検査は受けなければいけませんでした。検査結果が出るまで40分ほど待たされましたのであまりファストではなかったですが、今ならもっと早くなっているでしょう。

ただ、紙の書類は不要ですがいくつものブースを巡らされるのは変わらず、途中で紙のチェックシートを渡されるなどデジタルになりきれない日本の姿も垣間見えました。

（編集部）（画像出典元：厚生労働省サイト）

教育コラム

いつでもどこでもきちんとしようおかたづけ

しつけは、あらゆる教育活動の基本です。日常の生活習慣がきちんとおさえられていれば、まず教育の9割は成功です。集中力や持続性というような、学習に必要な資質は、じつは日常のしつけ教育から育ちます。

しつけをおろそかにしておいて、「勉強しなさい」「がんばれ」といくらお尻をたたいてみても、それは根の枯れた技葉の手入れをするようなもので、むなしい徒労に終ります。

そのしつけ教育は、あれもこれもと欲張らずに、つねに一点重点主義がいいです。ひとつのしつけが定着するまで、何回も何回も繰り返しの関わりが大切です。途中で油断をすると、すぐ元にもどってしまいます。この繰り返しこそが、集中力、持続性というような、将来の学習に必要な根性が育つ大事な鍵なのです。

たとえば、あとかたづけ。子どもは先へ、前へと突走るのは得意で、知的好奇心が旺盛な時期ですので、つねに目あたらしいものにとびつき、意欲を燃やすという特性があります。

これを車にたとえればアクセルに当ります。もちろんこの芽は、子どもの成長のために大切にしなければなりませんが、車の新しい発進の前には、必ずブレーキが必要です。このブレーキに当る部分があとかたづけの習慣です。

これは子どもにはたいへん苦手なことなので、根気よくしつけていかなければなりません。実はあとかたづけのしつけこそが、枝葉を育てるための根の教育の役割を果たしています。 はきものをそろえることにはじまって、開けた戸は閉めるとか、出したおもちゃは元に戻すとか脱いだ服をきれいにたたむとかの、あとかたづけのしつけを通して、自分のことは自分であとしまつができる子に育ちます。

これができる子は、なにごとにも落ち着いて、じっくり取り組むという、精神のたくましさが育ちます。たとえば、知的な活動、学習の場面などにおいて、静かにおちついて考え、最後までやりとげるという子は、このようなあとかたづけがきちんとできる子です。

おかたづけを出来るようにするには

1. 物の置き場所を決める。
2. どこに何があるかをきちんと理解する。
3. 使いたい時に自分でそこから出し、使い終わったらそこに戻す。
4. きちんと整理できるような環境を作ってあげる。
5. 上手に整理整頓ができている時は「きれいに片付けられているね。えらいね。」と褒めてあげる。

繰り返しが習慣づいてくると、きれいに整理することが自分だけではなく家族にとっても嬉しいことだと気づき、やる気がさらに上がります。なにごとも、お母さまとの深いかかわりあいの中から、自然に育てられ、それが将来のたくましい自立へと成長していくのです。おかたづけをお家でも意識してみてください。

（Bear Child Education Academy　熊本 祐滉）